

あいのかぜ

■ 特集

VOL. 41
2016年 春号

目指すは「富ママ」!

ママの意識が周りを変える 社会を変える

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課
(〒930-8510 新桜町7-38)
☎ 443-2051 FAX 443-2176
✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

さまざまな分野で女性の活躍に期待が寄せられる今。母として、妻として、一人の人間としての“女性の生き方”について、女性ライフデザイン協会理事長の浅野恭子さんにお話を伺いました。



— 浅野恭子さん —

平成27年9月、女性ライフデザイン協会理事長に就任。小6、小4、小1、年少の4児の母。手作り工房「風の薫り」を主宰。大阪府出身。



富ママフェアの様子

前 向きになれる 交流や勉強の場を

講座で習った料理を家庭でも作り、家族に「また行ってきて」と勧められたという参加者もいます。情報交換したり学んだりしたことを家庭に持ち帰るなどして、一人一人が前向きに、能動的になれば、その元気が家族や友達など周りの人にも伝わります。個々の意識が変われば、周りの人の意識も少しずつ変わっていくのではないのでしょうか。

現在、協会は男性1名を含む7名で運営していますが、それぞれの分野で活動するメンバーが、自分の持ち場を大切にしつつ協力することで、その力がかげ算になるように思います。自分一人ではできないことも、志が同じ人達が集まればできるという、チームの力の素晴らしさを感じています。これからも、自分たちがあつたらいいなと思えるような交流の場や勉強の場をつくり、「富ママ」を広める活動を続けていきたいと思っています。

人 生を自分らしく デザインする

女性ライフデザイン協会は、すべての女性に、自分の人生を女性らしく自分らしくデザインしてほしいとの思いから、平成27年1月に発足しました。起業を考える女性へのアドバイスやサポートをしたり、英語や音楽、料理といった子ども向け・ママ向けの講座を定期的に関開くなど、誰でも気軽に交流できる場を提供しています。

昨年秋には、富山市のグランドプラザで、“美”をテーマにした「富ママフェア」を開催しました。「富ママ」とは、心身ともに富んだ(満たされた)富山のママを意味しています。キッズスペースを設け、ステージイベントや体験ブース、カフェやショップなどを楽しんでもらいました。「普段後回しにしがちな自分に手をかけることで、自信が得られ意識が変わっていくことに気付いた」という参加者の声もあり、非日常の体験を明日への活力にしてもらえたようです。

家 族の理解と わが家の意識

「4人も子どもがいると大変でしょう」と聞かれることがありますが、私の場合はそうでもありません。それは、家族の理解のおかげだと思います。週に1度と決めている食料品などの買い物は夫がしてくれますし、乾いた洗濯物は子どもたちがたたんでくれます。いつも小さな赤ちゃんがいたためか、わが家には、「家のことはお母さんがすること」ではなく、「みんなですること」という意識があります。また、育児を“子どもとの生活”ととらえているので、家事にも自然と子どもを巻き込んでいくことになるのだと思います。

私の子育てスタイル

子育ての大きな目標や方針を一つ決め、子ども一人一人に合った育て方をするのがいいと思います。私は、迷ったときには、どんな問題でも「この子が丈夫で健康に過ごすためにはどうしたらよいか」を基準に考え判断しています。そうすることで小さなこだわりや迷いが消え、気持ちが楽になります。

レポート

男女共同参画とやま市民フェスティバル2015

山本コウタローさんが、「女(ひと)と男(ひと)のよりよい関係」と題して講演、ミニライブを行いました。

「走れコウタロー」や「岬めぐり」が大ヒットし、その後、テレビやラジオ、講演など活躍の場を広げ、現在は白鷗大学で地球環境学を教えるコウタローさん。会場では、70年代以降のヒット曲を



歌で綴りながらユーモアを交えてお話しされました。

男は養い、女は男に従うのが当然だった時代を映し出した「吉田拓郎」の「結婚しようよ」、「かぐや姫」の「神田川」、「はしだのりひことクライマックス」の「花嫁」、そして女性が強い意志を持ち始めた「荒井由美」の「ルージュの伝言」、草食系男子のハシリともいえる「オフコース」の「イエス・ノー」。

女性の社会進出から男女共同参画社会、現在の人口減少社会までの時代の変遷を歌とともに語ってくださいました。

「今、日本は一億総活躍社会を目指しているが、世界から見れば女性の社会的地位は104位とまだまだ。その理由は結婚、出産、育児などに追われる30代の就労率が低いこと。就労率を上げるには男性のサポートが必要。それには支

平成27年10月25日(日)に、市民プラザで「男女共同参画とやま市民フェスティバル2015」が開催されました。あいのかぜ編集委員がお伝えします。



え合い、褒め合い、コミュニケーションをとりながら、暮らしを楽しみ、変化に合わせていくことが大切」とお話しされました。

ライフパートナーが富山市出身というコウタローさん。第二の故郷富山を愛すると共に、富山の豊かな暮らしを次世代に繋いでいってほしいとエールを贈られました。

男女共同参画推進センターからのお知らせ

▶各種相談を行っています

- ・DV(夫・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。夫婦・パートナー間の悩みなど、ひとりで悩まずご相談ください。

DV相談専用電話 ☎433-2210

※来所相談については、電話予約をお願いします。

- ・弁護士による夫婦・男女に関する法律相談
- ・女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

※相談日程は、毎月、広報とやま20日号で案内しています。

▶男女共同参画講座を開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。詳細は、広報とやまに随時掲載します。気軽に参加してください。

問い合わせ

男女共同参画推進センター ☎433-1760
(CiC 3階:新富町一丁目)

『女性活躍推進法』が施行されました

女性が職業生活において、十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するために平成27年9月に施行されました。

～事業主^(※)に義務付けられたこと～

- ①自社の女性の活動状況の把握・課題分析
- ②行動計画の策定、届出、社内周知、公表
(行動計画については平成28年4月1日までに策定)
- ③自社の女性の活躍に関する情報を公表

(※)常時雇用される労働者数が301人以上の一般事業主および国、地方公共団体は義務(300人以下の一般事業主は努力義務)

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

『男女共同参画に関する市民意識調査』を実施しました

男女共同参画に関する意識や実態、ニーズを把握するため、昨年7月、富山市に居住する満20歳～79歳までの男女2,000人(男女各1,000人)を対象に市民意識調査を実施しました。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

調査結果の内容については男女参画・ボランティア課のホームページをご覧ください。

平成27年度 男女共同参画社会づくり作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、303点の応募がありました。入賞された方と、最優秀賞受賞作品をご紹介します。

<最優秀賞>

柳原いち花さん(岩瀬中学校 1年)

<優秀賞>

大田孝恵さん(大沢野中学校 3年)

布目遼平さん(岩瀬中学校 3年)

平瀬美翔さん(片山学園中学校 1年)

三日市芽衣さん(呉羽中学校 3年)

<佳作>

齊藤綾風さん(芝園中学校 3年)

高倉 萌さん(新庄中学校 1年)

田中花奈さん(堀川中学校 3年)

中尾晴星さん(堀川中学校 1年)

中野貴暁さん(堀川中学校 3年)

東岡秀樹さん(片山学園中学校 1年)

氷見乃奈さん(大沢野中学校 3年)

藤田陽菜さん(片山学園中学校 3年)

安井康三朗さん(大沢野中学校 3年)

山岸郁斗さん(北部中学校 2年)



「性別にとらわれず自分らしく生きる」

岩瀬中学校 1年 柳原いち花

あれは私が小学五年生になってすぐのことです。学校の帰り道に、信号待ちをしていると入学したばかりの女の子の三人組が歩いて来ました。一見普通の光景ですが、私には気になることがありました。それは、三人の内の一人の女の子のランドセルの色が黒色だったからです。女の子なのになあと不思議に思い、なんとなくその会話を聞いていました。するとやはり他の二人も不思議に思ったのかランドセルの色について聞いていました。

「なんで黒色にしたの？」

と、すると黒色のランドセルの子は

「黒が一番かっこよかったの。」

どうれしそうに答えました。するともう一人の女の子が

「〇〇ちゃんの持っている物って男の子と似てるよね。女の子なのに。」

と言いました。信号は青に変わり最後までは聞けなかったけれど、振り向いてみると黒色のランドセルの子は、またうれしそうな笑顔を見せていました。きっと、「でも私の好き

な物だから。」なんて言っていたのだろうと思います。

確かに黒いランドセルが男の子の物と決まっているわけでは、ありません。ですがCMでは男の子が背負っていたり店頭では男の子用というようなあつかいでかざり付けなどがされています。そんな中、黒色のランドセルを買うのは、勇気がいると思います。しかし、彼女は、しっかりと自分の意志をもっていたのでしょう。なぜなら二人の女の子の質問に答える姿は、迷いがなく、自信に満ちあふれていたからです。

「性別にとらわれず自分らしく生きる。」には、どうすればよいのか。私は少し見つけられた気がします。それは、自分の意志をしっかりと持つことです。

そして、「女の子なのに。」や「男の子のくせに。」などの差別するような言葉を使わないようにすること、それが男女平等の世界への第一歩だと思いました。自分にうそをつかず自分の意志を信じて生きていけたら。きっと後悔のない、自分らしい人生を送れると確信しました。

『あいのかぜ』編集後記

浅野さんへのインタビューで、「家のことはみんなです」という意識が家庭にあるという話に驚き、まず変えるべきは、自分の意識なのかもしれないと感じました。「富ママ」の輪がどんどん広がっていくと素敵ですね。

(春日編集委員)

山本コウタローさんの講演へ行ってきました。山本さんは家庭で「ありがとう」と言う約束をしているそうです。近い関係になると言えそうで言えない言葉ですが、よりよい関係を保つには大事なことと思いました。

(坪田編集委員)

平成27年度男女共同参画社会づくり作文コンクールでは、多くの中学生がしっかりと自分の考えを書いていた。生徒の皆さんが大人になる頃には、今よりもっとさまざまな人が働きやすい環境になるだろうなと思いました。

(松尾編集委員)